

女性運動家 奥むめおを知っていますか？

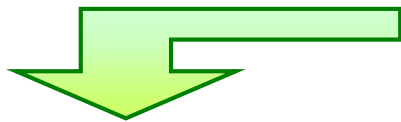


奥むめおは、1895(明治 28)年に生まれ、1997(平成 9)年に 101 歳で亡くなるまで、戦前・戦中・戦後の激動の時代を、暮らしに根づいた女性運動家として生き抜いた指導者です。今から 45 年以上も前に、消費者行政の重要性を訴え、「生活省」設置を要望し、「暮らしと政治をむすびつけること」を信念に、議員活動を続けました。

★奥むめおが行ったこと

- ・平塚らいてう、市川房枝とともに新婦人協会の理事に就任。女性の政治参加を制限する治安警察法第 5 条改正に尽力。
- ・職業婦人社を結成し、機関誌「職業婦人」を刊行して、働く女性たちを支援。
- ・婦人消費組合協会、婦人セツルメント、働く婦人の家を設立し、働く女性と無産階級の女性に対して、託児所、夜学、産児制限の指導などを実施。
- ・1947(昭和 22)年、最初の参議院議員選挙に、「台所と政治の直結」を訴えて当選。参議院議員活動のかたわら、主婦連合会、主婦会館を設立し、女性を消費者として自覚させ、消費者運動を展開。

そして……



茶の間や台所にある悩みや願いや希望を、政治の大きなテーマにのせたい！

奥むめおの消費者行政を専門とする機関を作るようにとの要望は、1965(昭和 40)年経済企画庁内に、国民生活局の設置という形で実現しました。また、各都道府県に消費生活担当課や消費者センターが設けられ、消費者行政の枠組みが作られました。まもなく設置予定の消費者庁も、元をたどればまさに奥の呼びかけに由来するものであり、奥は消費者行政の礎を築いた人物であると言えるのではないのでしょうか。

